

## 令和4年（2022年）度 事業計画

### [1] 映画及びテレビジョンの技術に関する調査研究（事業-1）

#### (1) ISO/TC36 国内協議会

国際標準化機構(ISO)/TC36（映画分野に係る国際規格の制定等専門委員会）国内協議会の事務局を担当。国際規格の制定・改訂・廃止等の審議を行い、その結果を取り纏めて投票。ISO/TC42（写真）とリエゾン関係にある規格の審議に協力。

#### (2) 規格委員会

映画及びテレビジョンに関わる内外の規格について検討。

### [2] 映画及びテレビジョンの技術に関する普及啓発（事業-2）

#### (1) 各部会による勉強会の開催

「映像プロセス部会」は、第57回特別セミナーを開催する。また、年3～4回、運営委員会を開催する。

「アニメーション部会」は、アニメーション及びVFXの先端技術に関する、第21回特別研究会を開催する。また、定期的に運営委員会を実施し、上記勉強会やセミナーを積極的に企画。映像技術賞、青い翼大賞各審査に貢献。審査のみではなく推薦も行う。

#### (2) 普及活動

新年名刺交換会及び映画やテレビの映像技術、デジタル技術、インターネット配信技術に関するセミナー等を開催し、協会会員相互の交流を図ると共に、新規会員の獲得に繋げる。ホームページにおいては、法人会員・個人会員コーナーを充実させ、WEBサイトを使ったセミナーの動画配信を行う。一方、海外の情報をより早く収集出来るようホームページ上にSMPTEサイトへのリンクを行う。また、新たに個人会員向けに「会員マイページ」を開設し、双方向の情報交換に役立てる。これらの活動を通し、技術者がより高度な技術を習得すると共に、業界関係者以外にも広く情報収集が出来る環境を提供し、映像文化の発展と関連ビジネスの活性化を図る。

#### (3) 各支部の活動

京都支部、大阪支部、中部支部、北海道支部、九州支部、東北支部、中国支部主催による勉強会を開催し、地方の映像制作関係者がより高度な技術を習得出来る機会を設けると共に、若手クリエイターを対象とした基礎技術セミナーを実施し、各支部活動の活性化に繋げる。

### [3] 映画及びテレビジョンの技術に関する出版物の発行（事業-3）

(1) 業界関係者及び一般向けに販売・配布している月刊機関誌「映画テレビ技術」の編集（委員会を毎月開催）と発行。

(2) 業界関係者及び一般大学（映像学科系）、専門学校のカリキュラム資料として活用されている「PROFESSIONAL CINE & TV TECHNICAL MANUAL 2023/2024」（技術手帳）の発行。

(3) 「新版・プロのためのビデオ取材」の一部改訂での発行。

#### [4] 映画及びテレビジョンの技術に関する研究業績及び技術成果の表彰（事業-4）

##### (1) MPTE AWARDS 2022

研究業績及び技術成果の表彰活動を74年にわたり行ってきた。本年度は第75回の表彰式(MPTE AWARDS 2022)を経産省が推進する「CoFesta 2022」のイベントとして、東京国際映画祭期間中に行い、映像業界の発展に寄与する。

以下の賞の選定及び表彰を行う。

- (1) 第75回技術開発賞
- (2) 第75回映像技術賞
- (3) 第40回青い翼大賞
- (4) 第25回日本映画テレビ技術大賞（経済産業大臣賞）

##### (2) 個人賞

「優秀制作技術賞」（柴田賞・鈴木賞）及び「優秀執筆賞」（小倉・佐伯賞）の選定及び表彰を行う。

##### (3) 会友推薦

該当者なし。

#### [5] 本会の目的を達成するための事業（その他）

- (1) 映画産業団体連合会の維持会員として「映画の日」の行事等に協力する。
- (2) 映像関連団体連絡会議に参加し、関連団体との情報交換等を行う。
- (3) 映画産業団体連合会理事会にオブザーバーとして参加、および事務局長連絡会議に参加し情報交換を行う。
- (4) 「映像文化製作者連盟」「日本映画監督協会」「日本映画撮影監督協会」「日本映画・テレビ照明協会」「日本映画・テレビ録音協会」「日本映画・テレビ編集協会」「日本映画・テレビ美術監督協会」「テレビ日本美術家協会」「全日本テレビ番組製作社連盟」「日本ポストプロダクション協会」「日本アド・コンテンツ制作協会」「日本エレクトロニクスショー協会」「ユニジャパン」「映像産業振興機構」等、各団体との相互協力を行う。
- (5) 会員証による映画館割引入場地域のさらなる拡充。
- (6) 日本アカデミー賞、東京国際映画祭、東京シネマショー、すかがわ国際短編映画祭等の運営に協力。